

## 独立行政法人日本学術振興会の令和元年度における業務の実績に関する評価 主務大臣による評価（案）一覧

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
1 総合的事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 引き続き、評議員会等を活用して、より一層研究者の知見を取り入れるとともに、エビデンスに基づいて分析・検証し、業務運営状況が改善されていくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 第一線の研究者による主任研究員会議、専門調査班会議、ワーキンググループ、タスクフォースなど多様なチャンネルから研究現場の声を吸い上げており、研究者に寄り添った形の運営がされており、高く評価できる。</p>
(1) 研究者等の意見を取り入れた業務運営	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 評議員会について評議員との日程調整の都合により令和元年度中には1回の開催となっているが、令和2年4月に令和元年度に開催予定だった2回目の評議員会が開催され、評議員の意見を取り入れる機会は確保できている。引き続き評議員の意見を取り入れる機会を確保するよう努めることが望まれる。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>
(2) 第一線級の研究者の配置による審査・評価機能の強化	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 全ての学問領域をカバーするとともに、組織形態や地域・男女比バランスにも配慮した学術システム研究センターの体制整備を行っており、特に、女性研究員の割合が、前年度より向上する等、積極的に女性の登用が進められている点が評価できる。 また、当該体制による各種事業への提案・助言に対し、有識者から構成される運営委員会より、提案・助言の適切性を評価する意見が得られていることから、質の高い提案等がされていることも認められる。 特に、科学研究費助成事業(以下「科研費」という)において、若手研究者がより大規模な研究へ挑戦すること等を促進するため、重複応募・重複受給制限の緩和を検討されたことは、研究者の視点からの助言であり、現場の意見が制度に反映されたものと言え、高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; —</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>

評価項目（令和元年度）	自己 点検評価 （法人）	外部評価 （法人）	大臣評価 （案）	主務大臣による評価（案）
(3) 学術研究の多様性の確保等	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  女性や外国人の参画も含め、引き続き学術研究の多様性の確保に貢献していくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  (有識者の意見等)  学術研究の多様性の確保と、現代的要請に応える業務運営は、最も重要かつ困難な課題である。そのため、我が国の学術研究の状況を分析して、適宜、修正を加える柔軟性が求められる。そういった意味でも、学術システム研究センター等の役割が今後も重要である。評議員における女性比率は23.5%と一定の配慮がなされているほか、審査組織等においても多様性が十分に図られていると思われる。なお、組織全体としてさらなる多様性を確保するためには、例えば、評議員会や運営委員会等の構成員において、女性及び外国人の登用をより積極的に図っていくことが考えられる。</p> <p>また、RPD・RRAの採用者・経験者を対象に行ったアンケートの結果を踏まえ、今後の施策に活かしていただきたい。</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
2 世界レベルの多様な知の創造	A	A	A	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;            科研費事業の充実・強化に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。            ・科研費の公募・審査業務において、令和2年4月1日交付内定予定であった種目について、計画通りのスケジュールで交付内定通知を发出するなど、着実に審査業務を実施していること            ・審査員の選考において、「若手研究」、「若手研究(B)」の採択経験者の審査委員候補者データベースへの登録を開始し、新規登録者数を充実（前年度比22.6%増）させるとともに、学術システム研究センター研究員においては、約38万件にも及ぶ前年度の審査について検証した上で、令和元年度の審査委員の選考を行うなど、審査員の量的・質的な充実を図っていること            ・募集事業（公募）において、公募要領全体の英語版を例年より1週間程度早く公表したり、若手研究（2回目）の応募者の基盤研究（S・A・B）との重複応募制限を緩和することにより若手研究者の挑戦を促すなどの改善策を講じたこと            ・交付業務において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和元年度末の繰越申請件数・補助事業期間延長承認申請が増大したことについて、提出期限を延長するなど弾力的な運用を行ったこと            ・研究者の海外渡航時における科研費の中断・再開を認めるための制度改善を令和元年度から導入し、研究者のグローバルな活動を促進したこと            ・研究終了後の公開情報の更なる充実に向け、研究成果報告などの様式を見直すなど、国民の理解促進に資する取組</p> <p>研究の国際化と国際的な共同研究等の推進に資する取組として、下記取組を講じている点が評価できる。            ・二国間交流事業について、オープンパートナーシップセミナーに大学コンソーシアム等の組織的な取組への支援として大学間連携の新設・募集をするなど、更なる二国間の国際共同研究、研究者交流、人材育成等の推進、今後の二国間協力のプラットフォーム形成に資する取組            ・国際共同研究事業について、中国国家自然科学基金委員会（NSFC）との新たなプログラムを実施し国際協力関係の構築に努めるとともに、スイス科学財団（SNSF）と将来のリードエージェンシー方式導入を見据えた合同審査を実施するなど、協力関係を一層強固にし、今後のリードエージェンシー方式の実施拡大に向けた取組</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;            平成30年度（平成29年9月公募）から適用した新たな審査システムについて、すでに検証作業に着手し更なる改善に努めるなど、科研費改革の着実な実施に向けた取組が認められる。引き続き、科研費制度全体の改善に向け、学術システム研究センター等も活用し検討を進めることを期待する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等に伴い、早期に柔軟な対応を取ったことは評価できる。引き続き、研究者のニーズや社会情勢等に応じて柔軟な対応を行うことを期待する。</p> <p>さらに、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業については、終了した研究テーマは、先導的な共同研究事例として積極的に研究者等に成果発信していく必要があることから、引き続き、シンポジウムの開催など、情報発信に取り組んでほしい。            また、人文学・社会科学分野の特性を踏まえた評価システムの検討については、成果発表のシンポジウムを活用するなど、積極的な取組が認められる。引き続きこうした取組を通じ、評価システムを確立することを期待する。            あわせて、人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、拠点機関及び国立情報学研究所と緊密に連携し、より幅広い分野横断的なデータカタログの整備、データ寄託を円滑に推進するためのガイドラインの策定などのデータ利用環境の向上に資する取組を実施することで、人文学・社会科学におけるデータの共有・利用を促進させることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;            ー</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
<p>（1）科学研究費助成事業の充実・強化に資する取組の推進</p>	S	S	S	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;          評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の顕著な進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;  <b>①審査・評価の充実</b>          科研費の公募・審査業務においては、令和2年4月1日交付内定予定であった種目について、計画通りのスケジュールで交付内定通知を出しており、着実に審査業務が実施されたと認められる。          また、学術システム研究センターを中心に科研費制度改革の進め方の検討を積極的に行い、科研費制度の改善に資したと認められる。          審査委員の選考については、「若手研究」、「若手研究(B)」の採択経験者の審査委員候補者データベースへの登録を開始し、新規登録者数を充実(前年度比22.6%増)させるとともに、学術システム研究センター研究員においては、約38万件にも及ぶ前年度の審査について検証した上で、令和元年度の審査委員の選考を行うなど、審査員の量的・質的な充実を図っていると認められる。          また、科研費審査システムの検証や改善のため、審査会での意見交換や審査委員に対するアンケートの実施等を通じ、審査システムの改善に向けて継続的に取り組んでいることは評価できる。          評価業務については、年度計画に定められた取組を着実に実施していると認められる。</p> <p><b>②助成業務の円滑な実施</b>          募集事業(公募)においては、公募要領全体の英語版を例年より1週間程度早く公表するなど、日本人研究者のみならず、外国人研究者の利便性向上を図るための取組を着実に実施していると認められる。          また、若手研究(2回目)の応募者の基盤研究(S・A・B)との重複応募制限を緩和するなど若手研究者の挑戦を促す改善を行ったことは高く評価できる。          加えて、「科学研究費助成事業説明会」において、より多くの関係者に科研費制度についての理解を深めてもらうために開催箇所を増やすとともに個別の質疑ブースを設けるなど理解の促進を積極的に図ったと認められる。          交付業務においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和元年度末の繰越申請件数・補助事業期間延長承認申請が増大したことについて、提出期限を延長するなど弾力的な運用を行ったことは高く評価できる。          また、研究者の海外渡航時における科研費の中断・再開を認めるための制度改善を令和元年度から導入したことは、研究者のグローバルな活動を促進する取組として評価できる。</p> <p><b>③研究成果の適切な把握</b>          平成30年度に終了した研究課題の研究成果報告書等をKAKENにより公開したことに加え、新規採択課題の研究概要の記載や終了した課題の研究成果報告書に新たに「研究成果の学術的意義や社会的意義」欄を設けるなど公開情報の充実を通じて、国民の理解促進に資するための取組を行ったと認められる。          さらに、研究成果の発信に関し、「オープンアクセス化」について公募要領で周知するとともに、実績報告書に記載する科研費論文にオープンアクセス化の状況の記載を求めるなど、世界的な動向を踏まえた対応を行っていることと認められる。          広報誌等については、「科研費研究成果トピックス」をリニューアルするとともに、各記事にKAKENとのリンクを設けることで研究成果のよりわかりやすく効果的な発信に努めたことと認められる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;          平成30年度(平成29年9月公募)から適用した新たな審査システムについて、すでに検証作業に着手し更なる改善に努めるなど、科研費改革の着実な実施に向けた取組が認められる。引き続き、科研費制度全体の改善に向け、学術システム研究センター等も活用し検討を進めることを期待する。          また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等に伴い、早期に柔軟な対応を取ったことは評価できる。引き続き、研究者のニーズや社会情勢等に応じて柔軟な対応を行うことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;          (有識者の意見等)          審査件数が膨大になっている中、審査システムの改変後も、質的・量的に安定した運営を行っていることは高く評価できる。          また、若手研究者の挑戦を促進するための、重複応募制限の緩和など積極的姿勢は評価できる。これらの新しい試みと、平成30年度から適用している新たな審査区分と審査方法は、我が国の審査文化を改革するための重要な方向であり、説明会やその他の機会を通じて、今後とも丁寧に説明して研究者に浸透させる必要がある。          さらに、比較的若い研究者を審査委員に積極的に登用し、次世代の審査員を育成している点はピア・レビューの実地教育の場にもなっており高く評価できる。          新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、研究を断念することのないよう柔軟な対応策を実施したことは高く評価できる。今後検証作業もしていただきたい。</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
（２）研究の国際化と国際的な共同研究等の推進	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 二国間交流事業について、着実に業務を実施していることに加え、オープンパートナーシップセミナーに大学コンソーシアム等の組織的な取組への支援として大学間連携の新設・募集を行ったことは、更なる二国間の国際共同研究、研究者交流、人材育成等を推進するとともに、今後の二国間協力のプラットフォーム形成に資する取組であり、高く評価できる。 国際共同研究事業について、中国国家自然科学基金委員会(NSFC)との新たなプログラムを実施し国際協力関係の構築に努めたこと、さらにスイス科学財団(SNSF)と将来のリードエージェンシー方式導入を見据えた合同審査を実施したことは、SNSFとの協力関係を一層強固にする取組であるとともに、今後のリードエージェンシー方式の実施拡大に向けて重要な取組であり、高く評価できる</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、各事業においては計画変更や期間延長など状況に応じて柔軟な対応を実施することを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 海外の学術振興機関等との国際共同研究事業の広がりを認めることができるが、こうした活動の成果が対外的にも理解いただけるよう、その成果を可視化するための工夫が求められる。</p>
（３）学術の応用に関する研究等の実施	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業については、様々な学術的・社会的要請を踏まえて課題を設定して、共同研究を推進した。終了した研究テーマは、先導的な共同研究事例として積極的に研究者等に成果発信していく必要があることから、引き続き、シンポジウムの開催など、情報発信に取り組んでほしい。 また、人文学・社会科学分野の特性を踏まえた評価システムの検討については、成果発表のシンポジウムを活用し、自然科学分野の研究者を交え検討を深めるとともに、コミュニティへの意識醸成も含め積極的に取り組んでいる。今後もこうした積極的な取組を通じ、評価システムを確立することを期待する。 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、拠点機関及び国立情報学研究所と緊密に連携し、より幅広い分野横断的なデータカタログの整備、データ寄託を円滑に推進するためのガイドラインの策定などのデータ利用環境の向上に資する取組を実施することで、人文学・社会科学におけるデータの共有・利用を促進させることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 人文学及び社会科学分野の評価をめぐる問題は難易度の高い問題の1つである。この点で、人文学・社会科学の特性を踏まえた評価の在り方について具体的な論点なども設定しながら検討を加えた点、さらに自然科学分野の研究者を交えて検討を加える取り組みを行ったことは評価できる。 また、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業や欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラムは、この分野の国際化、発信力強化のため必須の事業といえ、長期間支援を続ける必要がある。</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
3 知の開拓に挑戦する次世代の研究者の養成	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;  限られたスケジュールの中で、業務を着実に実施するとともに、審査方針の不断の見直しや国費を原資としない奨学金等を研究専念義務の範囲内で受給可能とするなど、研究者のニーズを踏まえて更なる制度改善を実施している点は評価できる。  海外特別研究員事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航や現地での研究実施が困難となった採用者に対して渡航延期などの措置を採用者のニーズを踏まえながら実施したことは若手研究者の支援に資する柔軟な対応であり高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  特別研究員事業を中心とする人材育成事業について、人材育成企画委員会における議論等を踏まえ、引き続き制度改善等に取り組んでほしい。  また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、各事業においては引き続き状況に応じて柔軟な対応を検討し、研究者が研究に専念できるよう、環境整備や支援に努めていただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  特別研究員事業は、若手研究者にとって重要な時期を支えるものであるため、これまでの成果をわかりやすく示すなどして、制度の更なる充実に努めていただきたい。  また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応については、今後検証作業もしていただきたい。</p>
(1) 自立して研究に専念できる環境の確保	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;  ・限られたスケジュールの中で、業務を着実に実施しつつ、PD・DCの第1次採用内定の通知を前年度よりも約2週間早い9月中に行った。  ・審査方針の不断の見直しや国費を原資としない奨学金等を研究専念義務の範囲内で受給可能とした。  ・3-1及び3-2の評価指標が中期目標に定められた水準を大きく上回る成果が得られている。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  特別研究員事業を中心とする人材育成事業について、人材育成企画委員会における議論等を踏まえ、引き続き制度改善等に取り組んでほしい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  学術研究の特性に応じた研究支援のあり方については、しっかりとした理念のもと、長期的視点に立って不断の見直しをする必要があるが、振興会においては愚直にその努力を続けていることから、高く評価されるべきである。</p>

評価項目（令和元年度）	自己 点検評価 （法人）	外部評価 （法人）	大臣評価 （案）	主務大臣による評価（案）
(2) 国際舞台で活躍する研究者の養成	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 海外特別研究員事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航や現地での研究実施が困難となった採用者に対して渡航延期などの措置を採用者のニーズを踏まえながら実施したことは若手研究者の支援に資する柔軟な対応であり高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、各事業においては引き続き状況に応じて柔軟な対応を検討し実施することを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航ができなくなった研究者に対して、それぞれの立場を考慮して臨機応変な対応をとったことは高く評価できる。今後検証作業もしていただきたい。</p>
(3) 研究者の顕彰・研さん機会の提供	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 国際的なシンポジウム・セミナー等について、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、事業趣旨や対応機関の意向等も勘案しつつ、必要に応じてオンライン形式とするなど工夫し、国際的な研さん機会の提供に努めることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>
(4) 研究者のキャリアパスの提示	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 卓越研究員事業における審査業務・交付業務について、中立的な公的機関として着実に実施している点は評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 事業の実施状況等を踏まえ、文部科学省と協議の上、審査基準や審査方法の改善等、事業の改善に向けた継続的な検討が必要である。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 卓越研究員事業による適切なキャリアパスの提示は、若手研究者への支援となっており、若手研究者層を維持することに有用。これにより、将来の研究成果にもつながると思われるため重要な事業である。引き続き、公正性・透明性が確保された審査や円滑な交付を着実に実施し、本事業の周知のための効果的な情報発信を行うことや、受入機関のより一層の広がりを期待する。</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
4 大学等の強みを生かした教育研究機能の強化	A	A	A	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 各プログラムに専門家による委員会等を設置し、公正な審査・評価に努め、審査・評価業務をすべて滞りなく実施できた点は評価できる。</p> <p>また、大学教育改革の支援に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士課程教育リーディングプログラムにおいて、補助期間の終了に当たり、修了者の各界での活躍状況等をまとめた広報用成果報告書を経団連の会員企業1,433社に配布するなど、各界における博士号取得者の活用を促すための取組</li> <li>・卓越大学院プログラムにおいて、令和元年度の審査部会委員、審査意見書作成者に対するアンケート調査を行い、審査プロセスの見直しを図るとともに、次年度の公募の改善に積極的に貢献したこと。また、採択機関では実施に向けての助走期間を十分に取れるよう、周到な準備により短期間で着実に審査業務を実施し、前年度より2か月前倒して審査結果を通知したこと</li> </ul> <p>さらに、大学のグローバル化の支援に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバル大学創成支援事業において、昨年度の発展的見直しに基づく中間評価要項等の作成を行ったほか、事業実施主体の当省と綿密な連絡調整を行い、事業を円滑に推進したこと。</li> <li>・世界展開力強化事業において、初めて欧州委員会との公募・英語による審査を共同で実施するに当たり、当省との連携により相手側機関との間で綿密な連絡調整を行ったこと</li> </ul> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 平成29年度から新たに活動を開始したWPI総合支援事業について、WPIアカデミーも含めた成果の最大化のための全体戦略の中で、アウトリーチ活動の位置づけやその目標を明確にする必要がある。また、当該全体戦略の中で、国際頭脳循環に関する業務委託も含めた本事業の更なる充実に努めていただきたい。</p> <p>大学教育再生加速プログラム及び地(知)の拠点大学による地方創生推進事業は国の事業支援期間が令和元年度で終了し、令和2年度に事後評価を予定しているが、各大学の取組成果の定着、発展及び我が国全体の大学への波及も見据え、令和2年度は事後評価の着実な実施等審査・評価業務の総括に努めていただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>
(1) 世界最高水準の研究拠点の形成促進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; WPIプログラムによる研究拠点形成に係る審査・評価・進捗管理業務について、着実に実施したことは評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 平成29年度から新たに活動を開始したWPI総合支援事業について、WPIアカデミーも含めた成果の最大化のための全体戦略の中で、アウトリーチ活動の位置づけやその目標を明確にする必要がある。また、当該全体戦略の中で、国際頭脳循環に関する業務委託も含めた本事業の更なる充実に努めていただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>



評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
(2) 大学教育改革の支援	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;            評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;            前年度の評価同様、多数の大型事業を円滑に推進し、採択後のフォローアップや評価が適切に行われている。            国の定めた制度・方針を踏まえ、迅速に事務体制を整えながら、事業ごとに専門家による委員会等を設置したことにより、透明性、信頼性、継続性を確保した公正な審査・評価体制が整備でき、各事業における審査・評価業務をすべて滞りなく実施できた点は評価できる。            博士課程教育リレーディングプログラムでは、補助期間の終了に当たり、修了者の各界での活躍状況等をまとめた広報用成果報告書を経団連の会員企業1,433社に配布したことは、各界における博士号取得者の活用を促すために重要な取組であり、評価できる。            卓越大学院プログラムでは、令和元年度の審査部会委員、審査意見書作成者に対するアンケート調査を行い、審査プロセスの見直しを図るとともに、次年度の公募の改善に積極的に貢献したことは高く評価できる。また、周到な準備により短期間で着実に審査業務を実施し、前年度より2か月前倒して審査結果を通知できたことは、採択機関では実施に向けての助走期間を十分に取れることになり、高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;            大学教育再生加速プログラム及び地(知)の拠点大学による地方創生推進事業は国の事業支援期間が令和元年度で終了し、令和2年度に事後評価を予定しているが、各大学の取組成果の定着、発展及び我が国全体の大学への波及も見据え、令和2年度は事後評価の着実な実施等審査・評価業務の総括に努めていただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;            —</p>
(3) 大学のグローバル化の支援	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;            評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;            大学のグローバル化を支援する国の助成事業について、委員会や部会等を開催し、審査・評価業務に従事している。            スーパーグローバル大学創成支援事業については、昨年度の発展的見直しに基づく中間評価要項等の作成を行ったほか、事業実施主体の当省と綿密な連絡調整を行い、事業の円滑な推進したことは評価できる。            世界展開力強化事業においては採択プログラム毎の委員会や部会を設置し、公正な審査・評価が行われるとともに、成果の速やかな情報公開を実施したこと、また、初めて欧州委員会との公募・英語による審査を共同で実施するに当たり、当省との連携により相手側機関との間で綿密な連絡調整を行ったことは特に評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;            —</p> <p>&lt;その他事項&gt;            —</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
5 強固な国際研究基盤の構築	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  「日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略」において示された取組を引き続き推進し、強固な国際研究基盤を構築に資することを期待する。  新型コロナウイルス感染症の動向も踏まえ、諸外国の学術振興機関、海外研究連絡センター、在外研究者コミュニティ等と協働し連携を図っていくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  学術振興機関長会議に積極的に参画し、海外の学術振興機関とのパートナーシップを強化するなど、計画通り着実に業務を実施している。</p>
(1) 事業の国際化と戦略的展開	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  大学等研究機関への事業説明会や各国の学術振興機関との意見・情報交換について、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、対面によらない形式（オンラインによる意見・情報交換・情報発信、広報資料の活用等）を取り入れるなど工夫し、学術国際交流事業の認知度向上に努めることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  強固な国際研究基盤の構築にかかる各種事業が令和元年に策定された「日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略」における「世界の学術研究をリードする」という目標に叶うよう、より戦略的な実施を期待したい。</p>
(2) 諸外国の学術振興機関との協働	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  新型コロナウイルス感染症の影響により、ますます多国間の学術振興機関等とのネットワークが重要となってくる。引き続き、学術振興機関長会議や、多国間の学術振興機関ネットワークにおいて果たすべき役割を積極的に担うとともに、戦略的に重要な諸外国の学術振興機関とのパートナーシップを強化し、各国共通の課題解決に向けて着実に活動を続けていくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
（３）在外研究者コミュニティの形成と協働	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 新規同窓会の設立要望を踏まえ、積極的に支援を行い、北欧とアジア各一つずつ同窓会を新設できたことは評価できる。また、外国人研究者再招へい事業について見直しを行い、より多くの招へい枠を確保し、事業のさらなる効率化とネットワーク強化となるよう柔軟に対応したことは評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、同窓会活動についてオンライン形式を取り入れるなど工夫し、引き続き支援していくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; (有識者の意見等) 振興会の支援で研究をしたコミュニティが世界で活躍することで、日本の学術文化が世界に広がることを期待する。 同窓会活動については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、参加者のニーズを取り込みながら戦略的に進めることを期待する。</p>
（４）海外研究連絡センター等の展開	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; —</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>
6 総合的な学術情報分析基盤の構築	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 引き続き、学術情報分析センターにおける分析や、学術システム研究センターにおける調査結果等が振興会の事業にフィードバックされること、また、振興会が保有する調査結果等を適切に情報公開することにより、有効に活用されることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>
（１）情報の一元的な集積・管理	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 情報セキュリティや個人情報保護を徹底した上で、振興会の諸事業に係る情報を一元的に集約・管理する体制が整備されることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; —</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
(2) 総合的な学術情報分析の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  特別研究員事業、海外特別研究事業、国際交流事業等については、国内外の情勢により変化が求められることから、各事業の改善に資するエビデンスデータ等の提供にも注力いただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  (有識者の意見等)  学術情報分析センターの活動は重要であり、分析調査員が増員され4名になったことは評価できる。所長、副所長の指導力に期待する。</p>
(3) 学術動向に関する調査研究の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  全ての学問領域をカバーした第一線の研究者である学術システム研究センター研究員を担当者として行われる学術動向等に関する種々の調査は、研究者の視点や学術分野の最新の動向等を踏まえたものであることから、調査等の結果を活用し、振興会事業を更に改善・発展していくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>
7 横断的事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  各公募事業の応募・審査・交付業務において、手続きの電子化を図る等、利用者（研究者、事務担当者）の負担軽減に資する改善が図られていることは評価できる。  新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、更なるオンライン化や迅速かつ細やかな情報提供等が求められることから、引き続き電子申請等の整備や情報提供等に努めていただきたい。  ホームページにおいてもよりわかりやすい・見やすいホームページを目指し、不断の改善を図る必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  (有識者の意見等)  「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、興味深いプログラムが企画されており、教育上有意義なものである。今後、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンラインで実施する場合には、参加者からのフィードバックも踏まえ、内容の充実をさらに進めていただきたい。</p>
(1) 電子申請等の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  各公募事業の応募・審査・交付業務において、手続きの電子化を図る等、利用者（研究者、事務担当者）の負担軽減に資する改善が図られていることは評価できる。今後、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、更なるオンライン化が求められることから、引き続き電子申請等の整備について対応を進めていただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
（２）情報発信の充実	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;  「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、令和元年度から、科学研究費助成事業として実施することで、業務効率化が図られ、効果的な広報等により応募件数の着実な増加、プログラムの着実な実施が認められる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  新型コロナウイルス感染症に関連する情報を振興会ホームページに迅速に掲載されたことは評価できる。引き続き、新型コロナウイルス感染症に関連する振興会の各事業における対応等の情報が研究者へ届くよう情報提供を細やかに行っていただきたい。  また、ホームページにおいてもよりわかりやすい・見やすいホームページを目指し、不断の改善を図る必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  「ひらめき☆ときめきサイエンス」は有意義なプログラムであり、参加者からのフィードバックも踏まえ、内容の充実をさらに進めていただきたい。</p>
（３）学術の社会的連携・協力の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  —</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>
（４）研究公正の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  引き続き、研究不正防止に向けた取組を継続する必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  研究公正の推進は、事業の根幹に係る重要事項である。振興会においては、その取組を着実に実施しており、成果を上げていると思われる。</p>
（５）業務の点検・評価の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  —</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
II 業務運営の効率化に関する事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;  —</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  一般管理費等の効率化における一般管理費の削減内容・評価については範囲及び分析方法含め検討を期待する。  GSOCセンサー監視に対応する環境構築の実施、振興会内の情報システムの一元的な管理の推進など、着実に改善していると思われる。</p>
1 組織の編成及び業務運営	b	b	—	—
2 一般管理費等の効率化	b	b	—	—
3 調達等の合理化	b	b	—	—
4 業務・システムの合理化・効率化	b	b	—	—
III 財務内容の改善に関する事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  —</p> <p>&lt;その他事項&gt;  —</p>
1 予算、収支計画及び資金計画	b	b	—	—
2 短期借入金の限度額	—	—	—	—
3 重要な財産の処分等に関する計画	—	—	—	—
4 剰余金の使途	—	—	—	—

評価項目（令和元年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
IV その他業務運営に関する重要事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt;  中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;  情報セキュリティ対策について、不断の見直しを行うとともに、インシデントが発生した場合においても迅速かつ確な対応がとられるよう、引き続き、職員等を対象とした研修等を実施いただきたい。</p> <p>&lt;その他事項&gt;  （有識者の意見等）  リスクマネジメントや情報セキュリティに対しては、常に最新の対策を講じる必要がある。引き続き念入りに検討した上で、取り組んでいただきたい。</p>
1 内部統制の充実・強化	b	b	-	—
2 情報セキュリティへの対応	b	b	-	—
3 施設・設備	-	-	-	—
4 人事	b	b	-	—